

第 1 4 5 期 貸 借 対 照 表
(平成31年 3月31日現在)

須賀工業株式会社

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
流 動 資 産	26,749,981	流 動 負 債	14,956,146
現金及び預金	8,593,837	支払手形	432,750
受取手形	4,942,236	工事未払金	4,440,293
完成工事未収入金	12,038,223	短期借入金	3,570,000
未成工事支出金	87,859	未払金	4,708,621
材料貯蔵品	14,291	未払法人税等	225,732
短期貸付金	240,000	未払消費税	315,081
前払費用	12,996	未払費用	749,355
未収入金	572,300	未成工事受入金	99,847
立替金	207,405	預り金	26,055
その他流動資産	42,610	短期リース債務	22,159
貸倒引当金	△ 1,779	完成工事補償引当金	63,200
		その他流動負債	303,048
固 定 資 産	21,524,632	固 定 負 債	5,651,126
有形固定資産	6,978,061	長期借入金	1,845,000
建物・構築物	1,736,086	繰延税金負債	1,282,730
機械・運搬具	1,345	長期リース債務	39,358
工具器具・備品	49,013	退職給付引当金	970,395
土地	5,123,763	役員退職慰労引当金	125,400
リース資産	56,961	再評価に係る繰延税金負債	1,076,659
建設仮勘定	10,890	その他固定負債	311,582
無形固定資産	645,586	負 債 合 計	20,607,273
投資その他の資産	13,900,985	株 主 資 本	20,327,704
投資有価証券	12,122,590	資 本 金	1,950,000
関係会社株式	155,768	資 本 剰 余 金	1,560,000
長期貸付金	28,396	資本準備金	1,560,000
長期前払費用	508	利 益 剰 余 金	16,817,704
長期差入保証金	1,254,073	利益準備金	487,500
その他投資等	492,155	その他利益剰余金	16,330,204
貸倒引当金	△ 152,508	買換資産積立金	506,129
		別途積立金	11,480,196
		繰越利益剰余金	4,343,878
		評価・換算差額等	7,339,636
		その他有価証券評価差額金	4,900,112
		土地再評価差額金	2,439,523
		純 資 産 合 計	27,667,340
資 産 合 計	48,274,614	負債・純資産合計	48,274,614

第 1 4 5 期 損 益 計 算 書

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

科 目	金 額	千円
売上高		
完成工事高	33,336,097	
不動産賃貸収入	483,170	
兼業事業売上高	52,306	33,871,574
売上原価		
完成工事原価	28,543,362	
不動産賃貸費用	245,300	
兼業事業売上原価	45,115	28,833,779
売上総利益		
完成工事総利益	4,792,735	
不動産賃貸益	237,869	
兼業事業売上益	7,190	5,037,794
販売費及び一般管理費		3,697,784
営業利益		1,340,010
営業外収益		
受取利息配当金	308,346	
投資有価証券売却益	719	
生命保険金	57,915	
その他営業外収益	57,359	424,341
営業外費用		
支払利息	61,405	
その他営業外費用	1,896	63,301
経常利益		1,701,050
特別利益		
固定資産売却益	962	
投資有価証券売却益	8,993	
その他特別利益	67	10,023
特別損失		
固定資産売却損	185,960	
投資有価証券評価損	5,104	191,064
税引前当期純利益		1,520,008
法人税、住民税及び事業税		229,961
法人税等調整額		△ 2,917
当期純利益		1,292,963

個 別 注 記 表

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

重要な会計方針に関する注記

1 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券は次の評価によっている。

- | | |
|------------|-----------------------|
| ①満期保有目的の債券 | 償却原価法 |
| ②子会社及び関連会社 | 移動平均法による原価法 |
| ③その他有価証券 | |
| 時価のあるもの | 時価法(評価差額は全部純資産直入法による) |
| 時価のないもの | 移動平均法による原価法 |

(2) 棚卸資産は次の評価によっている。

- | | |
|----------|-------------|
| ①未成工事支出金 | 個別法による原価法 |
| ②材料貯蔵品 | 先入先出法による原価法 |
- (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 固定資産の減価償却方法は法人税法に規定する方法によっている。

- | | |
|-------------------|-----|
| ①有形固定資産(リース資産を除く) | 定率法 |
|-------------------|-----|
- ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)、並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用している。
- | | |
|-------------------|-----|
| ②無形固定資産(リース資産を除く) | 定額法 |
|-------------------|-----|
- ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっている。
- | | |
|------------------------------------|--|
| ③リース資産(所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産) | |
|------------------------------------|--|
- リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法

3 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金は売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。
- (2) 完成工事補償引当金は完成工事の瑕疵担保等の費用に備えるため、過去の実績等を勘案して見積った額を計上している。
- (3) 工事損失引当金は、受注工事の将来の損失に備えるため、期末手持工事のうち損失の発生の可能性が高く、かつ、その損失額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上している。
- (4) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しており、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法にて翌年度から費用処理している。
- (5) 役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

4 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

請負工事に係る収益の計上基準については、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事(重要性の乏しい小額工事は除く)については工事進行基準(工事の進捗度の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用している。

5 その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に準じた会計処理を採用している。なお、重要性が乏しい小額リース資産等については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理を採用している。
- (2) 消費税の会計処理は税抜方式を採用している。
- (3) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示している。
- (4) 土地再評価法

土地再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上している。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める当該事業用土地の課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行って算出している。同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当事業年度末における時価の合計額は、当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額より893,199千円上回っている。

貸借対照表等に関する注記

1	有形固定資産の減価償却累計額	5,733,267 千円
2	損失の発生が見込まれる工事契約に係わる未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示している。	
3	関係会社に対する債権・債務	
	関係会社に対する短期金銭債権	240,408 千円
	関係会社に対する長期金銭債権	1,064,127 千円
	関係会社に対する短期金銭債務	4,538,280 千円
	関係会社に対する長期金銭債務	39,358 千円

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因は、有価証券評価差額金、土地再評価差額金、退職給付引当金損金算入超過等の計上によるものである。

1株当たり情報に関する注記

1	1株当たりの純資産額	1,418円83銭
2	1株当たりの当期純利益	66円30銭